

# 運動文化研究

## 39

2022 Vol.39

### 主要目次

【巻頭言】学校体育研究同志会の今後の研究運動について—今、なぜ集うのか 澤 豊治

### 特集1 教科内容研究の新たな地平と分科会再編

教科内容研究の新たな地平と分科会再編 制野俊弘・松尾 誠

中学校分科会の20年を振り返って～同志会実践の新たな地平を目指して～ 漆山晶博

陸上分科会のこれまでの歩みと課題 佐藤恵理

サッカー分科会のこれまでの議論と今後の課題 日名大悟

### 特集2 長編実践記録（夏大会・注目の実践）

ドラゴンとたいけつ！「うきょう大ぼうけん」 みんなが走りだすとき 古川宗治

中学校3年生 からだと表現の授業 井上知之

### 投稿論文

【研究論文】丹下保夫の民主体育論の発展と戦後民主主義の同調性に関する研究 佐藤亮平・沼倉 学・近藤雄一郎

【エッセイ】「混迷の祭典」とメディア —新聞やテレビは東京オリンピックをどのように扱ったのか— 有賀郁敏

【エッセイ】北京冬季五輪と「外交ボイコット」 —人権保障の観点から— 有賀郁敏

【実践研究】自分たちのくましろ祭を創っていく～子どもの主体性と教職員の意識改革～ 藤家克彦・岨 賢二

全国研究大会報告

学会・研究集会報告

「たのしい体育・スポーツ」発行状況（2021年夏号～2022年春号）

学校体育研究同志会研究年報

## The Opening Article

About the Future Study Movement of Taiiku-Doshikai -Why should we gather now?

Sawa, T.

## Special Theme I: New Horizon of Subject Contents Research and Reorganization of Subcommittees

The Aim of Subcommittees Reorganization

Seino, T. & Matsuo, M.

## Special Theme II: Instructional Practice Reports: Nortable Practice Reports in Summer Conference

Ukyo Great Adventure — When every child starts running (1<sup>st</sup> grade)

Furukawa, M.

Classes of Body and its Expression (9<sup>th</sup> grade)

Inoue, T.

## Articles

A Study on the Development of Yasuo Tange's Theory of Democratic Physical Education and the agreeableness of Postwar Democracy

Sato, R. Numakura, M. & Kondo, Y.

The "Festival of Confusion" and the Media

— How did the newspapers and television reports cover the Tokyo Olympic Games?

Aruga, I.

The Beijing Winter Olympic Games and the "diplomatic boycott"

—The perspective of human rights guarantees.

Aruga, I.

Creating Our Own Kumashiro Festival

—Children's independence and change of consciousness of faculty and staff

Sowa, K.

## 巻 頭 言

# 学校体育研究同志会の今後の研究運動について —今、なぜ集うのか

澤 豊治

(滋賀・全国常任委員長)

### 1. これはいつの時代の話なのか

今こうして本稿を執筆している間にもウクライナでは罪もない子どもや老人達に向けてロシア軍から容赦なく砲弾が浴びせられている。ウクライナはロシア軍による女性、子ども、高齢者ら数百人が避難していた学校を爆撃するなどの蛮行により深刻な人道危機の状態にある。4月現在やっと和平交渉が本格化する兆しが見えはじめていと言われているもののプーチン政権の国連憲章の条文を幾重にも蹂躪し、ジュネーブ条約など人道法にも背き、核兵器の先制攻撃を辞さないとする威嚇的な姿勢は全く変わっていない。

一方、国内の動きはどうなのか。このウクライナ危機に便乗して松井大阪市長は「非核三原則は昭和の価値観」と言い放った。安倍晋三元首相をはじめ自民党や日本維新の会、国民民主党の議員は「9条改憲」どころかアメリカとの「核共有」を議論すべき「非核三原則」の見直しを言いだしたり「敵基地攻撃能力の保有は不可欠」と国会の代表質問で言い出す始末。これに呼応してこともあろうか現職総理大臣である岸田首相まで『核共有』は一般論として、各政党などによる国民的議論はあり得る」と発言する始末。もし岸田首相が言う我が国の一般論で言うなら「9条がある日本においていかなる理由があろうとも『核共有』は絶対にあり得ない」ではないのか。このような

国内外の動向やそれに伴う責任ある公人の発言にいったいつの時代の話なのかと耳を疑いたくなる。我が国は、先の15年戦争において国の内外で数多くの犠牲者を出すとともに世界で唯一の戦争被爆国として憲法「第9条」において武力で国際紛争を解決しないと総ての国民が心から誓った。その「前文」で国家の名誉にかけて全力を上げて憲法に掲げる崇高な理想と目的を達成することを全世界に向かい高らかに宣言したのではなかったのか。その理想を昭和のレガシーだとか現実に合わないなどと言っているのける。貴方たちこそいつの時代の人かと言いたくなる。万が一にでも日本が核を保有したとしても「やられる前にやっしまえ」などと声高に国民に向かってこんな論議を投げかけ扇動する危険な人達に核のボタンなど渡せるわけがないではないか。次の文はタレントのラサール石井氏の3月31日付コラムである。

ゼレンスキー大統領の国会演説の際の山東昭子議員の発言に耳を疑った。

「閣下が先頭に立ち、貴国の人々が命をも顧みず、祖国のために戦っている姿を拝見して、その勇気に感動しております」とのたまわったのだ。個人の感想なら別に何を思っても構わない。しかし現職議員の参議院議長がはっきりと「お国のために戦う」ことを賛美するのは問題がある。戦争で戦うとは他国の

〔巻頭言〕 学校体育研究同志会の今後の研究運動について—今、なぜ集うのか（澤 豊治）

兵士を殺傷することに他ならない。たとえ侵攻したロシアに非があろうと「殺し合い」であることには間違いがない。

■戦わずして解決することが外交の使命

それを映画のように「戦う勇気に感動する」とは、思わず本音がダダ漏れだ。なんとか戦わずして解決することが政治家の外交の使命だ。感動している場合ではない。よほど戦争がお好きなんだろう。

大国が小国に侵攻した有事に、「戦争より平和を」と訴えるのか「やはり我が国も防衛力を強化」と訴えるのか。火事場泥棒のように改憲や核保有を訴える輩が跋扈する。

しかし、自国の守りを主張するなら、他国に侵略しないという平和憲法を改正する必要はないだろう。そもそも侵略を本気でおそれるなら、この小さい国に50基以上の原発をなぜ造ったのだ。1基でも攻撃されたら終わりではないか。

結局、海外の有事に参加できるようにしたいのでしょう。その時に、他国の兵士によって殺害されたり、他国の人間を殺したりする若者を見て「感動した」と美談にするのでしょうか。自分たちはいつも火の粉のかからない所にいて…

運動文化研究誌には少々似つかわしくない文章であることを承知で敢えて紹介した。非常に誰にでも分かり易く問題の核心を突いたコラムだからだ。ここに登場してくるようなタカ派の人達が一定層いる中で私たちは何をしなければいけないのか。この現実から教育を考える必要をまず強調したい。

## 2. 誰のための何のための 「教育・学校」なのか

いつの間にこんな焦臭い時代にまでなってし

まったのか。それは世界が一気にグローバル化し、新自由主義と新国家観が叫ばれ出した頃からではないだろうか。企業の生き残り競争は激しくなり、法律や施策でのセーフティーネットは次々と取り払われ公共の福祉やサービスは次々と削減されていく。勤労者の雇用は不安定になり結果社会は「貧富と格差」がますます広がった。その結果、社会には「あきらめ」とも「生きづらさ」とも言える「閉塞感」が蔓延する。今日生きるのに必死で他人のことなどかまっていられない大人達。それに呼応するように子ども達の様子も様変わりしてきた。「ゼロ・トレランス」や「スクール・スタンダード」の管理教育で「荒れる」ことさえも許されない。結果「いじめ」の件数や「学校不適応」を起こしてしまう子どもの数は一向に減ることはない。人生の勝者になるための生き残りゲームのような社会構造に学校教育はどっぷり浸かってしまっているのだ。「いじめ絶対ダメ！」などという標語を何枚学校に貼ったところで空しい限りだ。本気でいじめがなく、子ども達が大好きな学校にしたいのなら社会や学校が他者に対し不寛容な、失敗を許さなくなってしまっている構造にこそ早急にメスを入れるべきだ。

コロナ禍での学校のありようとも相まって「学校は本来子ども達にとってどのような場所であるのか」を今ほど私たちが考え、見直さなくてはいけない時代はないのではないか。本来学校は子ども達が健やかに成長しやがては立派な主権者になるための資質を身につけるところでなければならない。そのためにはどんな資質を養えば良いのか。その資質を養うにはどのような環境を整えなければならないのか。文科省は「教育課程は各学校で児童生徒の実態に合わせ学校独自で決めるもの」と判を押したように答える。そして彼ら役人は、「主体的・対話的な深い学び」だとか「主権者教育」の必要性を説く。しかし現実の学校はどうだろう。未だにブラック校則がまかり通り、全国一斉学力調査結果に一喜一憂し加えて教員までも勤務評定

〔巻頭言〕 学校体育研究同志会の今後の研究運動について—今、なぜ集うのか（澤 豊治）

制度でがんじがらめにされ、何処に教育課程を学校で編成したり、子どもや教員の主体性を発揮できる環境があるのかと言いたい。子ども達にとって本来学校は楽しい場でなくてはならない。それは、自らの成長を仲間や先生達との豊かな交わりの中で感じるという喜びだ。言い換えれば人間のもつ本質的且つ知的な喜びと楽しさだ。たとえ自分と立場や考えが違ってもしっかり時間をかけて話し合い、互いの違いを理解し尊重しながら一緒に課題を乗り越えていく。何度失敗しても、じっと見守りやり直しが許される。そしてやがてできるようになったりわかるようになったらそのことをみんなが認め一緒に我が事のように喜んでくれる。それこそが本当の意味で人間らしい「主権者」になるためにくぐるべき経験であり、そこで培われた人間性こそが「主権者」としての資質ではないのか。そしてその時間、機会、場をたっぷり保障する環境こそが「学校」に本来求めるものではないのだろうか。

### 3. 体育同志会は教育を取り巻く諸問題に真摯に向き合ってきたのか

国内外の情勢と教育を取り巻く問題について批判的に論述してきた。しかしそのような流れや動きに対し少なくとも学校現場にいた私はどのように対応してきたのかと問われたら「胸を張って、自分なりに必死に対抗してきた」とは言いがたい。つまり何となくは分かっていたが、どこか現実的でなく「困ったもんだなあ」「学校はこのまま行ったらどうなるんだろう」くらいにしか受け止められていなかった。ここへ来てコロナ禍の問題や、ウクライナ情勢を受けた情勢問題を受け先述したように回顧し数々の問題が一つの大きな世の中の流れの中で引き起こされていると気づき、これは大変な問題だと改めて認識したのである。読者諸氏はいかがだろう。物言わぬようになった学校現場、労働組合員数の激減、体育同志会も含め

た民間教育団体の活動実態と会員数の減少。どれ一つとっても今日の新自由主義な大きな流れに飲み込まれ、もがき苦しんでいるものの有効な手立てが打てない現状があるのではないのか。その根本的原因は、この現状をリアルに受け止めその問題の大きさに気づき何とかしなければと言う思いに突き動かされていないことだと考える。まず私たちがやらなければならないことは、自分の何となくの生きづらさとその原因をハッキリと自覚することだ。その上で、一人ひとりが何をなすべきなのか、体育同志会として何をなすべきなのかを一人でも多くの仲間と一緒に考え行動することが求められている。

### 4. 今なぜ集うのか

今世界では、ロシアのみならず覇権主義的大国の横暴な振る舞いが顕著になってきている。先ずはこのような社会情勢と目の前の子ども達とがどう繋がっているのかをしっかりと理解することが必要だ。具体的に言えば、職員室で世の中の動きと子どもの課題が同等に語られるような職場が必要ということだ。しかしこのような職場は一朝一夕に出来るものではないことも承知している。だから先ずは志を同じくする者達が集う必要があるのだ。

若い同志会員からこんな話を良く耳にする「同志会と知り合わなければ良かった。知れば知るほど、学べば学ぶほど同僚と気まづくなり職員室に居辛くなってしまふ」。そしていつの間にか回りに同調して本当の子どもの姿が見えなくなってしまっている自分が嫌だ。私たち教職員は、「今」を考えるとともに必ず「未来」を展望し常に革新的な視野で物事を見ることが大切である。だから当然理解者を得るには時間もかかる。その間自分の追い求める教育の信念が折れてしまわないためにも集い学ぶことがより重要なのではないのだろうか。

〔巻頭言〕 学校体育研究同志会の今後の研究運動について—今、なぜ集うのか（澤 豊治）

## 5. 同志会に集い何をするのか

では、同志会に集う意味は何なのか。政治や社会と学校の子どもの話をして、憂いでいるだけで良いのか。いやそうではない。そのことを土台にしっかり据えながら、子ども達の未来を語ることだ。どんな未来を創造し生きていって欲しいと願うのかを仲間と語り合う。そのために体育という授業を通して私たちに何ができるのかを考える。これを同志会では、運動文化を大衆のものにするために運動文化の「変革と創造」や「継承・発展」の中に学校体育を位置づけようとしてきた。そして学校体育の目的を「国民運動文化による人格形成」と捉え位置づけるに至った<sup>(1)</sup>。

つまりスポーツで「できる喜び」「分かる喜び」を味わわせることに始まりそれを阻害する要因を仲間とともに考え取り除きより多くの仲間が楽しめるものにしていく。今日在るスポーツもそうやって発展しこれからもそのように発展させていくのだという学びの場をつくる。その阻害する要因となるものは、差別であり貧困、ジェンダー平等、暴力等であることに子ども自らが気付いていく。そんな授業を創造していくことを目指してい

るのだと私は理解している。

今特集では、教科内容別分科会と発達別分科会の20年を振り返り成果と課題を明らかにし、今後体育同志会がどのような研究運動を進めるのかを考えていくことを目的とした。今こそ会員一人ひとりがこの研究運動に自らの意思で飛び込み全国の仲間とともに本気で子ども達の未来を考えていく決意を持たなくてはならない。

研究実践とは誰のためのものなのか。子ども達が整然と教師の指示に従い楽しそうに学んでいればそれだけで良い実践と言えるのか。けっして方法論にだけ目を奪われてはならない。それがたとえ拙い実践であったとしても、社会の現実と子ども達の生活や課題との関係をしっかりと捉え、そこから子ども達に保障すべき学力を導き出し「今の学校や授業を少しでも子ども達にとってよりよいものしたい」という思い「すべての子ども達に明るい未来を」の願いに突き動かされたものであるなら、それだけで同志会に集い検討する値打ちある実践であり、その教員が子ども達の前に立つ意味は十分にあることに確信を持ちたい。

### 【参考文献】

- (1) 森敏生 (2019) 「スポーツ・民主主義・平和と体育の授業論」『運動文化研究 Vol.36』

## 目次

巻頭言:学校体育研究同志会の今後の研究運動について—今、なぜ集うのか (澤 豊治) .....	3
<hr/>	
<b>特集1 教科内容研究の新たな地平と分科会再編</b>	
教科内容研究の新たな地平と分科会再編 (制野俊弘・松尾 誠) .....	8
中学校分科会の20年を振り返って ~同志会実践の新たな地平を目指して~ (漆山晶博) .....	14
陸上分科会のこれまでの歩みと課題 (佐藤恵理) .....	20
サッカー分科会のこれまでの議論と今後の課題 (日名大悟) .....	28
<hr/>	
<b>特集2 長編実践記録(夏大会・注目の実践)</b>	
ドラゴンとたいけつ!「うきょう 大ぼうけん」 みんなが走りだすとき (古川宗治) .....	36
一小学校1年生 障害走実践	
中学校3年生 からだと表現の授業 (井上知之) .....	42
<hr/>	
<b>投稿論文</b>	
[研究論文]丹下保夫の民主体育論の発展と 戦後民主主義の同調性に関する研究 (佐藤亮平・沼倉 学・近藤雄一郎) .....	51
[エッセイ]「混迷の祭典」とメディア —新聞やテレビは東京オリンピックをどのように扱ったのか— (有賀郁敏) .....	59
[エッセイ]北京冬季五輪と「外交ボイコット」 —人権保障の観点から— (有賀郁敏) .....	63
[実践研究]自分たちのくましろ祭を創っていく ~子どもの主体性と教職員の意識改革~ (藤家克彦・岨 賢二) .....	69
『運動文化研究』投稿規程 .....	77
<hr/>	
2021年学校体育研究同志会中間集会(2021.5.15-16)報告 (制野俊弘) .....	78
2021年第162回学校体育研究同志会全国研究集会・広島大会報告 (松尾 誠) .....	81
「2021年冬全国大会(オンライン)」各分科会報告 (川淵和美) .....	93
<hr/>	
<b>学会・研究集会報告</b>	
2021日本体育・スポーツ・健康学会報告 (佐藤亮平) .....	98
日本体育科教育学会第26回大会 (石田智巳) .....	99
日本スポーツ教育学会第41回大会報告 (口野隆史) .....	99
日本教科教育学会第47回大会 (石田智巳) .....	101
教育研究全国集会2021報告 (石田智巳) .....	102
日教組教研の保健・体育分科会に参加して (安部正晃) .....	102
<hr/>	
「たのしい体育・スポーツ」発行状況(2021年夏号~2022年春号)(たのしい体育・スポーツ編集委員会) .....	104
2020年度(2020/07~2021/08) 学校体育研究同志会決算 (全国事務局) .....	107
編集後記/奥付 .....	108